

## 社会的健康の構成因子と関連諸要因に関する研究

多々納, 秀雄  
九州大学健康科学センター

<https://doi.org/10.15017/393>

---

出版情報 : 健康科学. 5, pp.11-27, 1983-03-20. 九州大学健康科学センター  
バージョン :  
権利関係 :

# 社会的健康の構成因子と関連諸要因に関する研究

多々納 秀 雄

## A Study on the Factors of Social Health and the Related Elements

Hideo TATANO

The present study was intended to extract the factors of social health and the clusters of subjects concerning them, and to clarify the relationship between social health and individual, social, sports and physical related elements, especially from sociological perspective. The questionnaire consisted of 108 items concerning the state of social health and 25 related elements was performed to 893 students in 1981. The principle factor solution method with normal varimax rotation for extracting factors and non-hierarchical cluster analysis for classifying subjects concerning social health were applied in this study. Main results were summarized as follows :

1. Ten factors extracted by factor analysis were named as follows: F 1 (cooperative and conciliatory factor), F 2 (positive behavioral factor), F 3 (satisfactory and stable life factor), F 4 (social involvement volition and aspiration), F 5 (social involvement factor), F 6 (study and information factor), F 7 (comfortable life environment factor), F 8 (social rule and morality factor), F 9 (sport activity factor), F 10 (friendly intercourse factor).

2. Five clusters were extracted on social health, and the relationship of each clusters with the above factors and the related elements were examined. First cluster (free type) was the highest level in participations in sports and leisures, and was very high in social conditions, but it was low in aspirations and social involvement volitions. Second cluster (assiduous type) was very high level in study, information acquisition, aspiration and observance of social rules and moralities, but it was very bad in social conditions. Third cluster (irritated type) was very high level in social involvement volition and aspiration, in spite of bad life conditions and limited participations in sports and leisure. Fourth cluster (waver type) was the lowest level in all behaviors, volitions and conditions. And fifth cluster (lively type) was the highest level in life conditions, social involvements and those volitions, and observance of social rules and moralities.

3. Although many results were pointed out on the relationship between social health and the related elements, generally speaking, people who were in good social health were higher in social conditions, past and present sport involvements, and mental and physical health.

(Journal of Health Science, Kyushu University, 5 : 11~27, 1983)

## 緒言

WHOによる健康の概念規定において、社会的健康は健康状態の主要な一側面を構成することが指摘されたことにより、社会的健康に関してこれまで多くの論議が交わされてきたことは周知の通りである。そしてこれらの論議により、社会的健康に対する一般的認知度が従前に比べ著しく高まってきたことも確かである。しかしながら、社会的健康に対する定義および分析視角は身体的あるいは精神的な健康のそれに比べ著しく曖昧であり、これまでのところ社会的健康の明確な定義あるいは妥当性のある分析指標などは存在しないと云っても過言ではない。

例えば、社会的健康に関する従来の定義の例として、「社会的存在として十分に機能を発揮できる状態のこと」<sup>8)</sup>、あるいは「正常な社会生活を送る能力のこと」<sup>7)</sup>などがあげられるが、しかしそれらは余りに抽象的・一般的であり、定義自体の本来の機能（例、概念的・内包的表示）を果たすものではないことはもとより、その具体的・分析的意味は極めて不明確である。同様のことは、社会的健康の実態の把握のための具体的内容（尺度）に関する論議にもあてはまる。即ち、従来の研究で列挙された内容<sup>7) 8) 10)</sup>、例えば、「人類社会の理想や目的を理解できる」、「自己の立場を認めるとともに他人の立場を尊重し、かつ謙譲の精神をもっている」、「社会の出来事に注意を払っている」、「他人の失敗が目につかない」、等々の項目が、尺度としての分析的妥当性を持ち、個々人の社会的健康の実態の把握のために有効であるか否か甚だ疑問である。

本研究において、健康、特に社会的健康に関して定義を試みたり、その分析モデルを提示したりする余裕はない。しかしながら、例えば、Parsons<sup>11)</sup>、Bush<sup>2) 3)</sup>、Patrick<sup>12)</sup>、Dubos<sup>4)</sup> 等々による健康に関する諸定義を検討する時、従来のように健康を単なる“State”や“Capacity”としてではなく、個々人の生活行動に関わる“Ability”あるいは“Performance”として把握することが、今後の研究の重要な視点であると思われる。特に、社会的健康について考える場合において、前記のParsonsおよびそれに基づくPatrickらが、社会システムへの個人の参与に関連する役割と課業に対する一般的能力に関わるものとして健康を定義し、そしてそれに基づいて操作化していることは、極めて重要な示唆をもつものであると考えられる。

一方、病気と健康の類別に触れて指摘した社会学者Durkheimの言葉、つまり、

「われわれは、それを犯罪だから非難するのではなく、われわれが、それを非難するから犯罪なのである」<sup>5)</sup>

「それらに犯罪としての特徴を付与するものは、それらに内在する重大性ではなく、共同意識がこれらに認めるところの重大性である」<sup>6)</sup>

もまた、社会的健康を考える場合の重要な視点を示唆すると考えられる。このことについて詳述する余裕はないが、上記の言葉から、例えば、社会的健康を考える場合、単なる個人還元（帰属）主義的思考だけでなく、社会還元（帰属）主義的思考をもとり入れた複眼的視角が不可欠であること、あるいは一定のイデオロギーの共通理解なしには社会的健康の尺度構成は不可能であり、その安易な適用は一定のイデオロギーの押しつけになりかねない、いわゆる認知的レベルではなく評価的レベルに関わる合理性の問題に社会的健康が密接に関連していること、等々が直ちに類推できよう。

上記のような意味で、社会的健康をいかに規定し、いかに測定するかは、極めて困難なことからである。本研究は、今後の研究の足掛りを見出すための一つのパイロット・スタディとして、従来の研究を踏まえつつ、社会的健康の構成因子を検討し、そして社会的健康の関連諸要因の関係の検討を試みるものであるが、著しく暫定的なものにすぎない。

## 方法

### 1. 尺度の構成

社会的健康の状態を把握するための測定項目（尺度）の構成は、上記の諸点を前提としてすすめたが、その具体的な抽出・精選の作業は、まず第1に社会的健康に関する諸研究や諸調査の中から適切と思われる項目の選定、第2に昭和53年に実施した社会的健康に関する大学生の自由記述による予備調査の中から頻度の高い項目を抽出、そして第3に新たな視点に基づく項目の作成・追加、という3段階の過程を経てすすめられた。

特に第3番目の項目の作成・追加は、前記のParsons理論を修正・拡大し、図1、図2に示されるようにそれを生活行動面に適用した青井和夫ら<sup>4)</sup>の考え方を基礎として、生活行為における構造的側面と機能的側面を各々 A, G, I, L, S, R という6つの側面に区分す

ると共に、両側面をクロスさせることにより、そのマトリックスの中から論理的に可能と思われる社会的健康に関わる測定項目を、前記の前2つの抽出作業で精選された項目との重複を避け作成した。これらの手続きによって構成された項目は108項目である。

一方、社会的健康と他の諸要因の関連をみるために、まったく恣意的に25要因を設定した。

2. 調査の対象と時期

昭和56年1月、福岡市内の国立・私立の大学生を対象に調査票を配布・回収し、893名（男子449名、女子

444名）の有効回答が得られた。

結果と考察

1. 社会的健康の因子の抽出

既に指摘したいくつかの視点および3つの精選作業を経て、表1に示される社会的健康に関連する108項目を、社会的健康度の把握のための測定項目とした。各項目への回答は、「非常に賛成」から「非常に反対」まで、あるいは「非常にしている」から「全くしていない」まで、など各々いずれも4段階尺度で求めた。

	構造的側面	状況		物財体系		社会体系		文化体系		パーソナリティ体系	
		生活時間	生活空間	金銭	生活資財	役割	社会関係	規範	情報ルート	生活動機	生活価値
A	経済的行為 対社会的行為										
G	意志決定行為 目標遂行行為										
I	家事的行為 相互融和行為										
L	文化的行為 生理的行為										

図1 生活行為分析のマトリックス

生活行動の側面	構造的要因	時間	空間	手段	金銭	役割	規範
		生産的行動	労働・勤め・作業	家庭生活の時間的配分	家庭生活の空間的拡がり、住居生活	衣・食・住などの消費財の所有・配置	家計構造と生活水準
社会的行動	外出・交際・会合						
文化的行動	教養・趣味・マスコミ・行動						
家政的行動	家政・家族の統合・融和						
家事的行動	家事労働・買物						
生理的行動	睡眠・休養・食事・身のまわりの用事						

図2 家庭生活の構造

表1 社会的健康に関する諸項目の G-P 分析

項 目	相関 係 数	クラマ 係 数	項 目	相関 係 数	クラマ 係 数
1. アルバイトをしている	-.067	.114	27. ストレス解消のため、文化的趣味活動を行っている	.566	.583
2. 無駄使いせず生活している	.252	.255	28. 遊びや娯楽を十分に行っている	.392	.411
3. 社会奉仕的活動を行っている	.318	.325	29. 遊びや娯楽でストレスを十分に	.546	.558
4. 地域での諸行事や事業に参加している	.424	.439	30. スポーツを十分に楽しんで実施している	.481	.490
5. アルバイト、勉強などを犠牲にしている	-.182	.184	31. スポーツによってストレスを十分に解消している	.547	.551
6. 社会奉仕のために、かなりの時間を費やしている	.384	.403	32. 自由時間を十分に活用している	.584	.610
7. 地域行事への参加のため、情報を獲得している	.471	.488	33. 自由時間にストレスを十分に解消している	.601	.639
8. 地域での祭りやスポーツ行事に参加している	.387	.395	34. 様々な社会的情報を得るように努力している	.507	.507
9. 住まいで、十分にくつろいだり休息している	.391	.392	35. 様々な情報を生活に利用している	.574	.584
10. 十分に勉強している	.400	.413	36. 新聞や雑誌を読んで、ストレスを十分に解消している	.432	.439
11. 知識を、社会の生活に役立てている	.481	.487	37. 現在の生活に満足している	.643	.660
12. 勉強のため、他の活動を犠牲にしている	.060	.073	38. 経済的に満足している	.452	.457
13. 勉強の時間を十分に確保している	.335	.342	39. 生きがいを十分に感じて生活している	.605	.651
14. 勉強後、その疲労を十分に解消している	.378	.383	40. 地域のいくつかの組織に加入している	.362	.362
15. 他人と、うまく交際するように努力している	.563	.582	41. 自分自身を向上させるように努力している	.550	.557
16. 他人との交際にかかなりの時間を費やしている	.375	.380	42. 人に迷惑をかけないように努力している	.450	.467
17. 多くの友人を得るように努力している	.514	.522	43. 友達の中で孤立している	-.389	.399
18. 友人と多くの活動を行っている	.560	.571	44. 社会的な義務や責任を果している。	.488	.495
19. 友人との交際に満足している	.537	.548	45. 社会的な道徳や規範を順守している。	.404	.412
20. 友人としばしばけんかをする	.022	.047	46. 規則正しい生活をしている	.423	.426
21. 家庭内での仕事を手伝っている	.449	.451	47. 社会的に貢献している	.482	.489
22. 家族でいっしょに活動している	.495	.501	48. 自分を主張・表現している	.505	.523
23. 家庭に満足している	.442	.445	49. 何かをするとき、人に相談をしている	.318	.320
24. 家庭生活を重視している	.484	.496	50. 他人を軽べつ、無視したりする	-.156	.179
25. 教養・趣味活動を十分に行っている	.569	.580	51. 私は、大学生活を送る上で経済的に恵まれている	.357	.360
26. 教養・趣味活動の時間を十分に確保している	.585	.603	52. 大学生活を送るために、お金の問題は重要である	.103	.143

項 目	相 関 係 数	クラマー 係 数	項 目	相 関 係 数	クラマー 係 数
53. われわれは、社会奉仕的活動を行うべきである	.424	.427	81. 私は、道路のゴミなどを拾う方である	.330	343
54. 他人との交際は自分自身を向上させる	.518	.566	82. 私は、交通ルールを守る方である	.381	385
55. われわれは、地域の諸活動に参加すべきである	.397	.403	83. 私は、知り合いの人にあいさつをする方である	.555	584
56. 私の住む地域は、住みやすい	.442	.461	84. 私は、人の前で自分の意見を十分に主張できる	.500	521
57. 私の住まいは、環境や条件に恵まれている	.487	.491	85. 私は、大学祭に積極的に参加した	.362	385
58. 地域の社会的施設や設備は十分である	.414	.414	86. 私は、身だしなみをきちんとする方である	.478	500
59. 勉強は、われわれにとって非常に重要なことである	.398	.411	87. 私は、友人や家族との人間関係がうまくいっている	.597	610
60. 他人と交際することは重要である	.511	.554	88. 私は、生活の中で欲求不満やストレスを感じている	-.386	387
61. 私は、社会奉仕的活動を行いたい	.502	.534	89. 私は、共同生活がうまくできる方である	.536	541
62. 教養・趣味的活動により内面的に向上できる	.490	.511	90. 娯楽や遊びのための費用が十分にある	.388	397
63. 遊びや娯楽は、全くくだらないものである	-.266	.284	91. 社会奉仕のための能力（技術）がある	.464	467
64. われわれにとってスポーツは重要なものである	.403	.415	92. 住んでいる地域に、愛着がある	.471	493
65. 自由時間は、われわれに不必要である	-.149	.294	93. 住居について、十分な満足感がある	.493	518
66. 読書は自分を向上させる	.380	.387	94. 親からの忠告を十分に受け入れる方である	.524	533
67. 私は、自己中心的ではない	.369	.387	95. 一般教養的知識が十分にある	.429	449
68. 友人は、私のすすめたものを買うことが多い	.417	.425	96. 勉強の内容は、方法的、内容的に偏りがある	.138	165
69. 私はスポーツが得意である	.351	.352	97. 他人との交際で、自分の要求をおさえることがある	-.182	199
70. われわれは、社会に貢献すべきである	.447	.463	98. 他人との交際で楽しさを感じる ことがある	.493	521
71. 様々な集団に気易くとけこんだり、所属できる	.562	.577	99. 多くの友人がいる	.577	594
72. 私は、スポーツを多人数で行いたい	.461	.467	100. 家庭にはなごやかなふん囲気がある	.581	611
73. 私は、現在の大学生生活に満足している	.555	.581	101. 両親のしつけには、厳しさがある	.412	430
74. 私は、現在の社会・政治に満足している	.260	.284	102. 家族とともに過ごして、リラックス感がある	.616	650
75. 私は、友達から十分に信頼・承認されている	.528	.569	103. 流行のファッションに関心がある	.323	326
76. 私は、他人との協調性がある。	.553	.579	104. しばしば寄付行為に応ずることがある	.333	345
77. 他の人々と教養・趣味活動をしばしば行っている	.508	.511	105. 自分を打ち込める何かがある	.485	496
78. 私は、他の人々と遊びや娯楽を十分に行っている	.498	.515	106. 自由時間が十分にある	.429	445
79. 私は、暴力行為を見たらとめる方である	.422	.423	107. 勉強への意欲が十分にある	.416	425
80. 私は、バスでお年寄りに席を譲る方である	.485	.502	108. 政治に関心がある	.177	187

表2 社会的健康度測定項目の因子行列(回転後)

番号	項目	F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	F 6	F 7	F 8	F 9	F 10
99	多くの友人がある	.689	.039	.127	.079	-.063	-.074	-.016	-.028	-.163	-.236
76	私は、他人との協調性がある	.599	.051	.064	.130	.013	-.075	-.085	.105	-.097	-.122
43	友達の中で孤立している	.578	.068	.128	-.067	.096	-.090	-.120	.083	-.078	-.649
71	集団にきやすくとけこんだ所属できる	.576	.096	.030	.008	-.236	-.070	-.081	.010	-.124	-.055
89	共同生活がうまくできるほうである	.574	.057	.080	.108	-.021	-.020	-.082	.153	-.147	-.074
75	友達から十分に信頼・承認されている	.571	.092	.005	.027	.021	-.146	-.171	.133	-.164	-.013
87	友人や家族との人間関係がうまくいっている	.495	.057	.438	.074	.062	-.049	-.101	.187	-.082	-.094
78	他の人々と遊びや娯楽を十分行なっている	.486	.333	.133	.025	-.054	-.084	-.021	-.203	-.184	-.272
84	人の前で自分の意見を十分に主張できる	.479	.197	.041	-.018	-.207	-.266	.011	-.015	.009	-.043
68	友人は私のすすめたものを買うことが多い	.476	.006	.019	.100	-.146	-.043	-.034	.007	.107	.006
18	友人と多くの活動を行なっている	.466	.269	.053	.088	.248	-.054	-.044	-.132	-.141	-.307
19	友人との交際に満足している	.450	.100	.173	-.057	.009	-.018	-.194	.140	-.176	-.257
98	友人との交際で楽しさを感じる	.440	.147	.122	.373	.065	-.049	-.065	-.021	-.103	-.227
83	知り合いの人にあいさつをする方である	.388	.026	.170	.113	-.027	-.084	.041	.368	-.028	-.210
48	自分を主張・表現している	.366	.190	.056	-.035	-.205	.314	.048	-.011	-.036	-.258
67	私は自己中心的ではない	.348	.031	-.032	.014	.049	-.092	-.058	.236	-.180	.111
79	私は暴力行為をみたらとめる方である	.311	.091	.047	.125	-.204	-.095	.102	.085	-.072	.049
101	両親のしつけには厳しさがある	.276	.037	.092	-.013	.036	-.090	.092	.246	-.002	-.044
103	流行のファッションに関心がある	.265	.069	.036	.081	-.028	-.224	-.051	.105	.017	-.204
26	趣味・教養活動のための時間を十分獲得している	.107	.729	.007	.034	-.074	-.303	.029	.037	.000	-.006
25	趣味・教養活動を十分に行なっている	.025	.681	.015	.061	-.090	-.316	.044	.076	.083	-.006
27	ストレス解消のため、趣味・教養活動を行なっている	.012	.675	.045	.063	-.125	-.182	.050	.058	-.031	-.022
77	他の人々と教養・趣味活動をしれば行なう	.388	.555	-.029	.126	-.179	-.085	-.007	-.033	.033	.031
33	自由時間にストレスを十分に解消している	.152	.527	.148	-.072	-.006	-.025	-.226	.071	-.329	-.101
29	遊びや娯楽でストレスを十分に解消している	.214	.462	.203	-.065	.047	.115	.113	.057	-.450	.211
32	自由時間を十分に活用している	.248	.436	.100	-.084	-.033	-.013	-.169	.107	-.333	-.141
28	遊びや娯楽を十分行っている	.226	.380	.200	-.033	.037	.203	.010	-.207	-.353	-.258
36	新聞や雑誌で、ストレスを解消している	.029	.368	.105	.136	-.062	-.170	-.170	.035	.056	-.034
105	自分を打ち込める何かがある	.244	.304	.071	.019	-.143	-.301	-.008	.029	-.183	.096
14	勉強後、その疲労を十分に解消している	.016	.267	.186	-.044	.023	.102	-.125	.115	-.231	-.200
85	大学祭に積極的に参加した	.159	.236	-.074	.037	-.215	-.149	-.058	.210	.055	-.021
23	家庭に十分満足している	.069	.029	.733	.031	-.047	-.036	-.082	.196	-.045	-.057
100	家庭にはなごやかな雰囲気がある	.260	-.050	.636	.046	-.008	-.002	.015	.239	.030	-.078
38	経済的に満足している	-.019	.143	.626	.111	-.096	-.110	-.212	-.089	.054	.028
102	家族と過ごしてリラックス感がある	.234	-.038	.581	.110	-.007	-.008	-.006	.294	-.058	-.082
51	大学生活を送る上で経済的に恵まれている	.029	.062	.567	.136	.027	-.122	.218	-.159	.100	-.007
90	遊びや娯楽のための費用が十分にある	.053	.044	.524	.096	.022	-.137	-.122	-.375	.000	.025
24	家庭生活を重視している	-.008	.093	.464	.144	-.110	-.099	-.125	.338	.010	-.177
94	親からの忠告を十分に受け入れる方である	.123	-.079	.456	.072	-.039	-.119	.024	.430	-.041	.010
37	現在の生活に満足している	.185	.311	.450	-.044	-.069	-.062	-.374	.202	-.114	-.155
106	自由時間が十分にある	.111	.249	.344	.011	.145	.006	-.104	-.112	-.199	-.000
88	生活の中で欲求不満やストレスを感じる	.203	.132	.339	-.070	-.001	.084	-.243	.109	-.158	.060
73	現在の大学生活に満足している	.241	.291	.307	.016	-.050	-.106	-.304	.076	-.146	.086
39	生きがいを十分に感じて生活している	.207	.245	.296	.063	-.172	-.261	-.248	.118	-.117	-.041
9	住まいでくつろいだり休息している	-.036	.141	.284	-.048	.039	-.010	-.282	.136	-.113	-.219
70	我々は社会に貢献すべきである	.046	-.042	.090	.700	-.149	-.111	-.111	.016	-.074	.143
53	我々は社会奉仕的活動を行ないたい	-.027	-.049	.113	.697	-.205	-.002	-.113	.078	.027	.071
55	我々は地域の諸活動に参加すべきである	.032	-.130	.063	.620	-.245	-.017	-.168	-.004	-.066	.007
61	私は社会奉仕的活動を行ないたい	.053	.026	.085	.616	-.352	-.005	-.130	.057	-.013	.134

番号	項 目	F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	F 6	F 7	F 8	F 9	F 10
62	教養・趣味活動によって内面的に向上できる	.101	.290	-.012	.598	.056	-.126	-.030	.039	-.093	-.140
59	勉強は我々にとって非常に重要である	.015	.020	-.091	.573	.124	-.275	-.059	.081	-.009	-.098
60	他人と交際することは重要である	.179	.050	-.036	.534	.107	-.027	-.051	.086	-.120	-.402
66	読書は自分を向上させる	.074	.180	-.063	.516	.116	-.074	.055	.086	-.091	-.163
54	他人との交際は自分自身を向上させる	.210	.055	-.007	.488	.049	-.044	-.026	.136	-.086	-.386
4	地域での行事や事業に参加している	-.004	-.012	.057	-.029	-.689	-.064	-.043	.072	-.022	-.088
6	社会奉仕のために、かなりの時間を費している	-.016	.116	-.052	.074	-.634	-.002	-.050	.061	-.069	.021
7	地域行事参加のため常に情報を獲得している	-.022	.010	-.037	.051	-.617	-.167	-.014	.046	-.004	-.186
8	地域での祭りやスポーツ行事に参加している	.073	-.080	.021	-.028	-.650	-.001	-.037	.009	-.204	-.177
3	社会奉仕的活動を行なっている	.051	.103	-.065	.036	-.577	-.002	-.033	.062	-.021	.054
40	地域のいくつかの組織に加入している	.064	.054	-.048	.022	-.554	-.122	.019	-.055	-.042	-.058
47	社会的に貢献している	.146	.104	-.041	.054	-.444	-.318	-.165	.167	-.059	.094
104	しばしば寄付行為に応ずることがある	.177	.144	.029	.208	-.372	.133	-.038	.124	.014	.181
91	社会奉仕のための能力(技術)がある	.260	.059	.127	.125	-.337	-.299	-.020	-.057	-.045	-.128
10	十分に勉強している	-.016	.047	-.012	.023	-.011	-.626	-.142	.219	-.058	.020
107	勉強への意欲が十分にある	.100	.130	.126	.193	.019	-.574	-.004	.077	-.042	.188
13	勉強の時間を十分に確保している	-.108	.022	-.073	-.003	-.025	-.544	-.078	.188	-.091	.009
41	自分自身を向上させるよう努力している	.060	.147	.059	.211	-.205	-.513	.037	.123	-.130	-.238
35	様々な情報を生活に利用している	.084	.284	-.054	.081	-.252	-.472	-.094	.023	.123	-.198
34	様々な社会的情報を得るよう努力している	.051	.209	.072	.113	-.217	-.470	-.024	-.043	.116	-.204
95	一般教養的知識が十分にある	.343	.136	.028	-.083	.051	-.427	-.034	-.104	-.040	.138
11	知識をあなたや社会の生活に役立てている	.152	.187	-.012	.029	-.239	-.372	.018	.160	.046	-.207
44	社会的な義務や責任を果たしている	.147	.055	-.001	.090	-.277	-.366	-.034	.329	-.068	-.020
42	人に迷惑をかけないように努力している	.051	.058	-.084	.203	-.066	-.330	-.014	.306	-.180	-.255
57	住まいは環境や条件に恵まれている	.096	.071	.113	.110	-.012	-.087	-.738	.039	-.004	-.003
56	住んでいる地域は住みやすい	.120	-.042	.075	.160	.022	-.043	-.709	.066	.028	-.157
93	住居について十分な満足感がある	.030	.097	.272	.025	-.087	-.127	-.619	-.010	-.047	-.017
92	住んでいる地域に愛着がある	.001	.010	-.083	.110	-.186	-.029	-.561	.109	.034	-.134
58	地域の社会的施設や設備は十分である	.069	.021	-.094	.078	-.009	-.002	-.553	.012	-.062	.052
21	家庭内での仕事を手伝っている	.054	.013	-.031	-.009	-.208	-.074	-.196	.485	.058	-.195
46	規則正しい生活をしている	-.011	.028	.093	-.009	-.007	-.351	-.166	.474	-.052	.046
22	家族でいっしょに活動している	.011	.054	.227	.037	-.207	-.063	-.277	.448	.037	-.128
82	交通ルールを守る方である	.096	.005	.090	.149	-.042	-.168	.01	.424	-.013	.063
45	社会的な道徳や規範を順守している	.000	.045	.097	.187	-.054	-.343	-.046	.396	-.061	.019
80	バスでお年寄りに席を譲る方である	.218	.130	-.051	.263	-.065	-.019	.031	.384	.061	.092
86	身だしなみをきちんとする方である	.316	.111	.029	-.040	-.039	-.025	-.171	.349	.048	-.149
81	道路のゴミを拾う方である。	.137	.230	.012	.172	-.279	-.018	.041	.316	.047	.229
31	スポーツによってストレスを十分に解消している	.132	.146	-.012	.030	-.151	-.180	-.022	-.023	-.772	-.050
30	スポーツを十分に楽しんで実施している	.140	.117	-.020	.010	-.146	-.162	.014	-.033	-.749	-.038
69	スポーツが得意である。	.295	-.137	-.003	.021	-.192	-.072	.001	.005	-.517	.045
64	我々にとってスポーツは重要なものである	.159	-.068	-.043	.373	.044	-.027	.013	.077	-.399	-.163
72	スポーツを多人数で行ないたい	.336	.007	.073	.204	-.096	.093	-.029	.001	-.376	-.095
15	他人とうまく交際するよう努力している	.337	.048	.047	.083	-.144	-.138	-.112	.098	-.061	-.579
17	多くの友人を得るよう努力している	.356	.047	.050	.058	-.148	-.086	-.094	-.015	-.124	-.536
16	他人との交際のためにかなりの時間を消費している	.352	.145	.077	.025	-.142	.137	.028	-.210	-.145	-.460
49	何かをする時、人に相談している	.225	.038	.051	.095	-.029	-.006	-.112	.180	.026	-.312
固 有 値		6,539	4,512	4,276	6,197	4,193	3,992	3,338	3,278	3,200	2,891
寄 与 率 (%)		6.8	4.7	4.5	4.4	4.4	4.2	3.5	3.4	3.3	3.0
累 積 寄 与 率 (%)		6.8	11.5	16.0	20.3	24.7	28.9	32.3	35.8	39.1	42.1

まず最初に、構成された項目の妥当性をみるために、否定的項目には回答肢の各段階に順に1点から4点までの得点を、肯定的項目には順に4点から1点までの得点をそれぞれ与え、108項目の合計得点を各対象者にまず算出すると共に、合計得点における上位および下位の者各々25%を抽出し、それと各項目とをクロスすることによりG-P分析を試みた。その結果は表1に示される通りであるが、多くの項目において高い有意な相関がみられ、特に3の項目では0.500以上の著しく高い相関がみられた。

逆に、クramer係数0.300以下の相対的に有意性の低い項目は、次の通りである。

(項目番号) 1, 2, 5, 12, 20, 50, 52, 63, 65  
74, 96, 97, 108.

そしてこれらの項目については、以後の分析のすべから削除することとした。

次に、社会的健康度に関わる各項目の共通性あるいは潜在因子を明らかにするために、G-P分析の結果として除外された13項目を除き、95項目について主因子法による因子分析を適用し、バリマックス回転により因子を抽出した。因子数決定の基準として固有値1.0以上を考えると、本研究では因子数が多くなりすぎるにもかかわらず、累積寄与率はあまり増加しなかったため、ここでは因子数を10因子に恣意的に限定した。各因子に高い負荷量を示す項目を順に配列すると、表2に示される回転後の因子行列が得られた。以下、各項目の内容を中心に各因子の解釈と命名を試みてみたい。

#### 1) 第1因子(F1)

F1に高い負荷を示す項目は、99多くの友人がある、96他人との協調性がある、93友達の中で孤立している、94集団にきやすく所属できる、等々の19項目である。因子負荷量の低い幾つかの項目を除けば、これらの質問項目の多くは、友人・集団生活での交際あるいは協調性に関わる項目であるところから、「共同生活・協調性因子」と命名できる。この因子は固有値6.54と最も高く、そして6.8%の最高の寄与率を示し、全因子の中で最も重要な因子と考えられる。

#### 2) 第2因子(F2)

F2に高く負荷する項目は、98趣味・教養活動のための時間の確保、95趣味・教養活動の十分な実施、97ストレス解消のための趣味・教養活動の実施、等々いずれも趣味・教養活動に関わる項目と、一方93、99、92、98など自由時間や娯楽に関わる項目とから主に構成されている。従って、趣味・教養活動あるいは遊びや娯楽

活動を積極的に実施することに関連するところから、「積極的行動性因子」と命名したい。F2の寄与率も4.7%とかなり高く、重要な因子と考えられる。

#### 3) 第3因子(F3)

F3に高い負荷を示す項目は14項目であるが、92家庭に十分満足している、90家庭になごやかな雰囲気がある、98経済的に満足している、97現在の生活に満足している、等々いずれも家庭・経済・生活などが安定し、そこに満足感を得ていることに関わっている。従って、ここでは「生活満足度・安定性因子」と命名したい。

#### 4) 第4因子(F4)

F4では、90我々は社会に貢献すべきである、93我々は社会奉仕の活動を行なうべきである、95地域の諸活動に参加すべきである、あるいは96他人と交際することは重要である、96読書は自分を向上させる、等々の9項目であるが、内容的には社会参加意識と内面的向上意欲という二つの側面から構成されている。両者を統合して考えることも可能であろうが、ここではそのまま、「社会参加・内面的向上意欲因子」としたい。

#### 5) 第5因子(F5)

F5に負荷の高い項目は、94地域での行事や事業に参加している、96社会奉仕のためにかかなりの時間を費している、あるいは93社会奉仕の活動を行なっている、等々の9項目であるが、いずれも地域活動などの社会参加の実施状況に関わっているところから、「社会参加状態因子」と命名したい。

#### 6) 第6因子(F6)

F6に高い負荷を示す項目は、90十分に勉強している、90勉強への意欲が十分にある、93勉強の時間を十分に確保している、等々の10項目であるが、一部の項目を除き、そのほとんどは勉強や情報獲得の実施や努力などに関連している。従って、ここでは「勉学・情報因子」と名づけたい。

#### 7) 第7因子(F7)

F7では、97住まいは環境や条件に恵まれている、96住んでいる地域は住みやすい、93住居について十分な満足感がある、等の5項目の負荷が高いが、各項目はいずれも生活諸条件・環境の快適性・満足度に関わっている。従って、F7は「快適生活環境因子」と名づけたい。

#### 8) 第8因子(F8)

F8に高い負荷を示す項目は、94規則正しい生活をしている、92交通ルールを守る方である、96社会的な道徳や規範を順守している、等の社会規範・道徳に密

接に関連する8項目からなる。この意味で、F8は「社会規範・道徳因子」と命名したい。

#### 9) 第9因子 (F9)

F9に高い負荷を示す5項目は、例えば、㉓スポーツによってストレスを十分に解消している、㉔スポーツを十分に楽しんで実施している、等々のように、いずれもスポーツ活動の実施に関連している。従って、F9は「スポーツ活動因子」とここでは命名したい。

#### 10) 第10因子 (F10)

F10に負荷量の高い項目は、㉕他人とうまく交際するよう努力している、㉖多くの友人を得るよう努力している、等々の4項目である。いずれの項目も他者との交際（への努力）に関連しているが、各項目の負荷量は第1因子についてもかなりの数値である。この意味で、内容的に第1因子と密接に関連し、その内容も類似しているが、ここではF10を「友人交際因子」と命名したい。

以上、各因子の解釈と命名を試みたが、表2に示されるように、累積寄与率は42.1%と必ずしも高くなく、また各因子の中には疑義のある項目もみられるが、上記のように社会的健康を構成する主要な因子として、共同生活・協調性、積極的行動性、生活満足度・安定性、社会参加・内面的向上、社会参加状態、勉強・情報、快適生活環境、社会規範・道徳、スポーツ活動、友人交際、等の因子が抽出された。

なお、この因子抽出の結果は、因子数を更に増加した場合も、また男女別に抽出した場合も、全体的な傾向は各々著しく類似していたことを付記したい。

ちなみに男子の場合は下記の通りである。

- F1……友人等との交際、共同生活
- F2……遊び・娯楽・自由時間活動
- F3……勉強、社会規範の順守
- F4……社会参加、内面的向上意欲
- F5……趣味・教養活動、情報獲得
- F6……社会参加状態
- F7……家族生活
- F8……生活環境
- F9……経済状態
- F10……（解釈不能）

一方、女子の場合は下記の通りである。

- F1……友人交際、共同生活
- F2……遊び・娯楽、自由時間活動
- F3……勉強、情報獲得、社会規範の順守
- F4……家庭生活
- F5……社会参加状態

F6……社会参加意識、内面的向上意欲

F7……趣味・教養活動、社会的道徳

F8……生活環境

F9……スポーツ活動

F10……経済状態

ところで上記の結果は、ある意味ではランダムに抽出されたところの、108項目を基礎とする因子分析の結果である。前記の108項目を更に精選することにより、34項目を基礎とした因子分析を試みた。その結果の詳細な報告は別途行なったが<sup>9)</sup>、主要な因子は下記の通りである。

F1……社会的貢献因子

F2……社会（地域）参加因子

F3……人間関係因子

F4……家庭生活因子

F5……社会規範の順守、自己啓発意欲、に関連

F6……趣味・教養活動、遊び・娯楽活動、に関連

F7……積極的行動因子

F8……人間関係重視因子

## 2. 社会的健康度に関するクラスターの抽出

社会的健康に関するクラスター分析に先立ち、前記の因子分析の結果として抽出された諸因子を各々特徴づける諸項目と、全項目（108項目）の合計点を基準とする合計点の上位と下位の各々25%に属する対象者（健康群と不健康群）とを関連づけてみると、表3に示されるように、社会的活動や経済状況あるいは勉強などに関わる若干の項目において相対的に低い数値ではあるとはいえ、全体としては各項目と健康度との間には著しく高い相関がみられ、両群の間には顕著な差異が認められた。これに関する詳細な説明は、トートロジーに陥る危険性があるため割愛するが、表3から、例えば、両群を顕著に特徴づけ判別する要因は遊び・余暇、教養・趣味活動、家庭生活などであり、逆にそれほど有効でない要因は勉強、経済状態、あるいは社会的活動などであること、一方、しかしながら全体としては今回とりあげられた項目はかなり有効かつ妥当であったこと、等々が指摘されてよいだろう。

次に、上記のこと前提としながら、因子分析に基づく因子負荷量を指標とする非階層的手法によるクラスター分析によって、5つのクラスターを抽出すると共に、各々の項目や因子およびサンプルの社会的健康に関わるパターンの分析を試みた。表4、表5、表6は、各クラスターのセントロイド、各クラスター間の距離、そして各クラスターと主要項目のクロス、を順に

表3 社会的健康度と諸項目とのクロス

	項 目	相関係数	クラマー 係 数	各項目「1. 非常に賛成」 への回答の比率		
				全 体 (N=520)	健康群 (N=237)	不健康群 (N=283)
人間関係	99 多くの友人がいる	.577	.594	34.2	62.9	10.2
	76 他人との協調性がある	.553	.579	21.5	38.5	3.5
	43 友達の中で孤立している	-.389	.399	2.4	0.4	4.3
教養・ 趣味活動	25 教養・趣味活動を行っている	.569	.580	20.1	36.8	4.3
	26 教養・趣味活動の時間を確保している	.585	.603	18.6	34.1	3.8
	27 教養・趣味活動によりストレス解消している	.566	.583	19.7	34.5	5.5
遊 び ・ 余 暇	29 遊び・娯楽によりストレス解消している	.546	.558	28.8	48.9	9.8
	32 自由時間を十分に活用している	.584	.610	22.1	38.1	6.8
	33 自由時間に十分にストレス解消している	.601	.639	21.6	37.2	6.8
社会活動 意識	53 我々は、社会奉仕的活動を行うべきである	.424	.427	15.7	26.4	4.4
	55 我々は、地域の活動に参加すべきである	.397	.403	14.0	21.8	5.8
	70 我々は、社会に貢献すべきである	.447	.463	25.6	40.6	9.7
内 面 的 向 上	59 勉強は、我々にとって重要である	.398	.411	50.3	69.5	30.1
	60 他人と交際することは重要である	.511	.554	72.7	96.7	47.3
	62 教養・趣味活動により内面的向上が可能	.490	.511	50.1	74.1	24.8
社 会 的 活 動	4 地域の行事・事業に参加している	.424	.439	2.0	3.6	0.4
	6 社会奉仕の為に、時間を使っている	.384	.403	0.4	0.9	—
	7 地域行事参加のため、常に情報を獲得	.471	.488	1.1	2.2	—
勉 強	10 十分に勉強している	.400	.413	3.7	6.7	0.9
	13 勉強時間は十分に確保している	.335	.342	4.8	7.6	2.1
	107 勉強意欲が十分にある	.416	.425	10.8	18.6	4.2
情 報 の 得 得	11 知識を社会生活に役だてている	.481	.487	7.0	13.5	0.9
	34 社会的情報獲得に努力している	.507	.507	15.5	28.7	3.0
	35 情報を生活に利用している	.574	.584	10.3	20.2	0.9
居住環境	56 住んでいる地域は住みやすい	.442	.461	28.0	46.4	8.4
	57 住まいは環境条件に恵まれている	.487	.491	25.2	41.4	8.0
	93 住居に十分な満足感がある	.493	.518	18.7	37.1	3.2
社会規範 の 順 守	44 社会的義務・責任を果たしている	.488	.495	14.2	24.7	4.3
	45 社会的道徳・規範を順守している	.404	.412	29.3	44.8	14.5
	82 交通ルールを守っている	.381	.385	23.9	36.0	11.1
スポーツ	30 スポーツを楽しんで実施している	.481	.490	22.3	35.9	9.4
	31 スポーツによりストレス解消している	.547	.551	21.0	37.2	5.5
	69 スポーツが得意である	.351	.352	16.3	25.1	7.1
家庭生活	23 家庭に満足している	.442	.445	36.5	55.2	18.7
	100 家庭になごやかな雰囲気がある	.581	.611	33.8	63.7	8.8
	102 家族と過ごして、リラックス感がある	.616	.680	32.5	63.7	6.4
経済状況	38 経済的に満足している	.452	.457	19.9	34.5	6.0
	51 大学生活を送る上で経済的に余裕	.357	.360	24.1	35.6	11.9
	90 娯楽・遊びの費用が十分にある	.388	.397	8.8	16.5	2.5

示すものである。

表4からはF1（共同生活・協調性因子）が第IIクラスターと第IIIクラスターを最も強く弁別していること、等々が指摘され、一方表5からは第IIIクラスターと第IVクラスターが最も遠い距離にあること、等々が示唆される。そしてそれらの諸結果を具体的に示すのが表6といえる。

表4, 表5, 表6の結果から、各クラスターの特徴として次の諸点が指摘されよう。

1) 第Iクラスター

第Iクラスターと他のクラスターとの弁別に強く関与している因子はF9・F7・F5であり、最も近い距離には第Vクラスター、最も遠い距離には第IVクラスターが各々位置している。一方、表6に示される主要項目とのクラスター・クロスの結果では、第Iクラスターはスポーツ・余暇活動を全クラスターの中で最も多く実施し、同様に居住環境・家庭生活・経済状態への満足度は最も高い。しかし、教養・勉強・情報獲得・規範順守・社会参加・内面的向上意欲などはいずれもやや低い傾向にある。これらの結果から、第Iクラスターは生活諸条件に恵まれ、それに満足し、社会

参加や自己向上の意欲に乏しいが娯楽に対して強い志向を示すところのマイペース型であるといえよう。この意味で、「ユウユウ型」と名づけたい。

2) 第IIクラスター

第IIクラスターと他のクラスターとの弁別にはF2・F5・F6の各因子が強く関与し、第IIクラスターは第Iクラスターと最も近く、第IVクラスターと最も遠い距離にある。一方表6によると、家庭生活・スポーツ活動・経済状態などへの満足度は全クラスターの中で最低であるが、教養活動・勉強・情報活動などの実施状況、および内面的向上意欲や社会規範・道徳の順守の程度はいずれも最も高い。この意味で、第IIクラスターは「コツコツ型」と命名されよう。

3) 第IIIクラスター

第IIIクラスターと他のクラスターとの弁別にはF2・F4・F7などの因子が特に強く関与し、また第Iクラスターと最も近く、第IVクラスターと最も遠い距離にある。そして表6によると、教養活動・余暇活動・情報獲得・スポーツ活動などの行動的側面の状況は全クラスターの中で最低の水準であるのに対し、逆に社会活動意識と内面的向上意欲は著しく高い。そして居

表4 各クラスターと因子の相関関係

クラスター		因子									
		F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	F 6	F 7	F 8	F 9	F 10
I	ユウユウ型	-.072	.143	-.285	.040	-.396	-.362	-.418	-.040	.926	.197
II	コツコツ型	.211	-.909	.376	-.303	-.571	.460	-.122	-.213	-.312	.198
III	イライラ型	.327	.947	-.027	-.755	-.280	-.151	-.493	.429	-.463	-.087
IV	フラフラ型	.174	.198	.034	1.258	-.067	.080	-.118	.171	-.381	-.844
V	ハツラツ型	.003	-.129	-.063	-.073	1.272	.002	.124	-.201	-.080	.265

表5 各クラスター間の距離

クラスター		I	II	III	IV	V
I	ユウユウ型					
II	コツコツ型	2,074				
III	イライラ型	2,128	2,283			
IV	フラフラ型	2,253	2,327	2,399		
V	ハツラツ型	2,045	2,151	2,282	2,288	

表6 社会的健康度に関するクラスター・クロス

	項 目	相関係数	クラマール係数	各項目「1 非常にそう」 2 かなりそう」の合計の比率					
				全 体 (N=893)	第 I クラス (N=215)	第 II クラス (N=193)	第 III クラス (N=150)	第 IV クラス (N=141)	第 V クラス (N=194)
人間関係	99 多くの友人がいる	.038	.161	80.0	86.5	74.1	84.7	66.6	85.0
	76 他人との協調性がある	.084	.121	82.5	87.0	80.3	84.7	73.8	84.6
	43 友達の中で孤立している	-.108	.108	20.7	13.0	22.8	21.3	22.0	25.7
教養・ 趣味活動	25 教養・趣味活動を行っている	-.056	.297	52.6	35.8	81.9	28.0	42.6	68.5
	26 教養・趣味活動の時間を確保している	-.035	.303	46.7	32.6	80.3	18.0	34.7	59.8
	27 教養・趣味活動によりストレス解消している	-.018	.279	49.0	40.5	78.3	20.7	34.0	61.8
遊 び ・ 余 暇	29 遊び・娯楽によりストレス解消している	.255	.261	72.0	91.7	78.7	44.0	58.8	74.7
	32 自由時間を十分に活用している	.149	.254	58.3	71.6	69.4	24.0	44.0	69.6
	33 自由時間にストレスを解消している	.165	.258	56.1	72.5	70.4	18.0	41.8	63.4
社会活動 意識	53 我々は、社会奉仕的活動を行うべきである	-.001	.226	85.6	87.0	87.6	95.3	60.3	93.2
	55 我々は地域の活動に参加すべきである	-.003	.243	77.8	81.8	71.0	92.7	47.5	90.7
	70 我々は社会に貢献すべきである	.045	.216	86.0	87.9	88.6	94.7	61.7	92.3
内 面 的 向 上	59 勉強は我々にとって重要である	.138	.242	93.6	93.4	98.5	98.0	78.7	96.4
	60 他人と交際することは重要である	.239	.352	98.5	100.0	100.0	100.0	90.8	100.0
	62 教養・趣味活動により内面的向上が可能	.100	.245	94.6	94.4	99.5	96.0	84.4	96.4
社 会 的 活 動	4 地域の行事・事業に参加している	-.400	.300	13.0	4.7	2.1	10.0	7.1	39.7
	6 社会奉仕の為に時間を使っている	-.360	.310	3.8	0.0	0.5	1.3	2.1	14.5
	7 地域行事参加のため、常に情報を獲得	-.373	.287	7.3	1.4	4.1	2.7	2.8	23.7
勉 強	10 十分に勉強している	-.009	.161	26.6	20.5	45.1	14.7	25.5	24.7
	13 勉強時間を十分に確保している	.011	.125	26.5	26.5	35.8	16.0	27.0	25.2
	107 勉強意欲が十分にある	-.009	.125	43.7	34.9	59.6	43.3	35.5	43.8
情 報 の 得 得	11 知識を社会生活に役だている	-.108	.171	36.8	29.8	46.1	27.3	27.0	50.0
	34 社会的情報獲得に努力している	-.113	.193	52.9	35.8	67.4	48.0	45.4	66.5
	35 情報を生活に利用している	-.148	.223	45.4	26.1	64.7	32.0	36.2	64.9
居住環境	56 住んでいる地域は住みやすい	-.114	.166	77.8	89.7	73.1	70.0	66.6	83.5
	57 住まいは環境条件に恵まれている	.067	.152	71.3	81.9	67.9	57.3	63.9	79.4
	93 住居に十分な満足感がある	.011	.173	57.8	64.6	56.0	36.7	54.6	70.7
社会規範 の 順 守	44 社会的義務・責任を果たしている	-.127	.159	53.0	43.2	58.6	42.6	41.8	74.2
	45 社会的道徳を順守している	.015	.142	51.9	79.1	88.7	76.0	72.3	89.7
	82 交通ルールを守っている	.004	.108	73.3	71.1	81.4	65.3	76.0	79.4
スポーツ	30 スポーツを楽しんで実施している	.165	.239	47.3	70.2	41.4	28.0	32.6	53.1
	31 スポーツによりストレス解消している	.190	.258	47.2	72.1	42.5	23.3	31.2	54.7
	69 スポーツが得意である	.005	.182	55.1	72.5	32.1	56.6	46.1	63.9
家庭生活	23 家庭に満足している	.036	.153	79.4	85.6	70.0	78.6	75.8	85.1
	100 家庭になごやかな雰囲気がある	.006	.132	83.0	88.8	74.1	84.0	80.2	86.6
	102 家族と過ごして、リラックス感がある	.042	.133	82.6	91.6	74.1	82.0	75.9	86.6
経済状況	38 経済的に満足している	-.025	.099	58.9	63.3	50.8	57.3	51.1	69.1
	51 大学生活を送る上で経済的に余裕	.036	.084	65.8	79.5	69.4	76.6	72.3	79.9
	90 娯楽・遊びの費用が十分にある	.069	.113	35.2	42.3	31.1	40.0	34.1	28.3

住環境や経済状態など生活条件への満足度も決して高くない。このような特徴、つまり意欲・意識の側面ではかなり積極的であるが、極めて非行動的であり、生活条件に恵まれていない、という傾向から、このクラスターは「イライラ型」と命名されてよいだろう。

4) 第Ⅳクラスター

このクラスターの弁別にはF 4 とF 10の因子が特に強く関与し、クラスター間の距離では第Ⅰクラスターと最も近く、第Ⅲクラスターと最も遠い距離にある。そして表 6 にみられるように、ほとんどすべての項目において著しく低い数値を示し、特にそれは社会活動意識や内面的向上意欲あるいは人間関係などに関わる項目において顕著である。従って、すべてのクラスターの中で最も無気力・無関心・非行動的・不満足というこのタイプは「フラフラ型」と名づけられる。

5) 第Ⅴクラスター

F 5 の因子が他のクラスターとの弁別に極めて強く関与し、第Ⅰクラスターに近く、第Ⅳクラスターに最も遠い距離にある第Ⅴクラスターは、全体として諸項目に対する積極的な比率が最も高い。即ち、居住環境・経済状態などにかかなり恵まれ、余暇・スポーツ・情報獲得などの諸活動の実施度が極めて高く、そして特に第Ⅴクラスターに顕著な特徴は他のクラスターに比べ社会的活動の実施度と意識、あるいは社会規範・道徳の順守の程度が著しく高率であることである。社会的健康度に関わる様々な意識や行動のレベルが極めて

高いところから、第Ⅴクラスターは「ハツラツ型」と言えよう。

以上、因子負荷量を基準とする非階層的クラスター分析により、社会的健康に関するクラスターを抽出し、その特徴を検討した。各々のクラスターは「ユウユウ型」、「コツコツ型」、「イライラ型」、「フラフラ型」、「ハツラツ型」と命名され、それぞれ独特な特性をもつことが明らかにされた。それらの結果として、例えば、社会的健康度は第Ⅴクラスターが最高で、第Ⅳクラスターが最低であること、あるいは社会的規範・向上意欲・行動性等々の諸次元を軸とすれば、図 3 のように各クラスターを位置づけ比較することも可能であろう。しかしながら、社会的健康度は単一次元上で判断されるべきではないところの複合的全体であるという意味で、ここではそれらの検討は避けたい。

3. クラスターと関連諸要因

次に、社会的健康について抽出された5つのクラスターが基礎的・社会的要因あるいは健康・体力・スポーツに関わる要因とどのように関連しているかを明らかにするために、それらに関連すると思われる25要因を恣意的にとりあげ、クラスター・クロスを試みた。

表 7 はクラスター・クロスによる相関係数とクラマー係数、更にカテゴリー別比率を示すが、そこに示される17要因で0.10以上のクラマー係数が認められ、逆

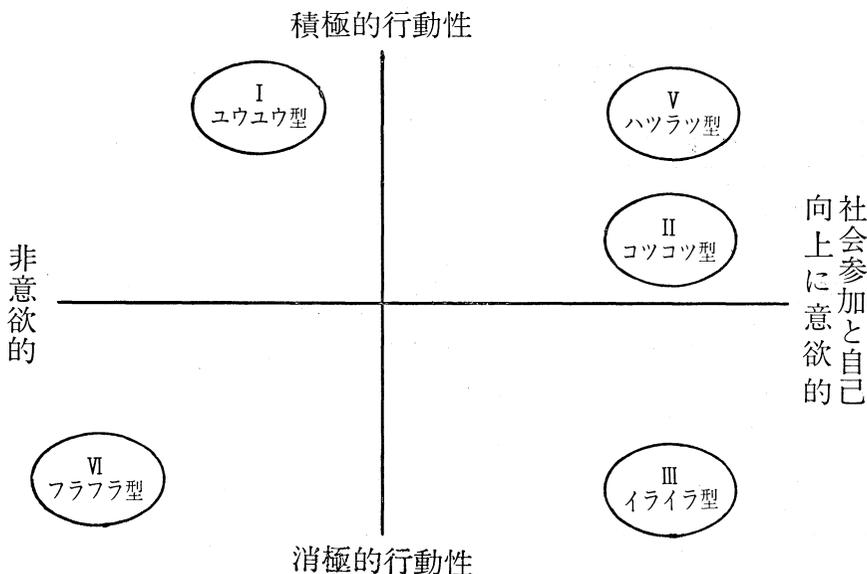


図 3 各クラスターと若干の社会的健康度の関連

表7 関連諸要因とのクラスター・クロス

要因	相関係数	クラスマ係数	カテゴリー-N	クラスター					要因	相関係数	クラスマ係数	カテゴリー-N	クラスター				
				I	II	III	IV	V					I	II	III	IV	V
				215	193	150	141	194					215	193	150	141	194
大学種別	.015	.152	1. 国立大	34.4	44.0	25.3	38.3	27.3	学 部	.089	.153	1. 人 文	3.3	13.5	2.7	5.7	5.7
			2. 私立大	20.5	24.9	20.7	15.6	39.7				2. 社 会	6.0	3.1	6.7	5.7	2.1
			3. 私立女子大	27.9	21.8	36.7	34.0	16.5				3. 自 然	53.5	51.3	53.3	60.3	35.6
			4. 私立女子短大	17.2	9.3	17.3	12.1	16.5				4. 教 斉	37.2	32.1	37.3	28.4	56.7
性別	.047	.166	1. 男 子	53.5	46.1	52.7	64.5	38.7	過 去 の 体 力	.041	.100	1. 非常に高い	14.4	5.7	12.0	8.5	10.3
			2. 女 子	46.5	53.9	47.3	35.5	61.3				2. かなり高い	35.8	22.3	36.0	28.4	30.9
身体的健康	.127	.175	1. 非常に健康	51.2	30.6	30.0	20.6	35.1	現 在 の 体 力	.011	.125	3. 普 通	36.7	48.7	36.7	38.3	43.3
			2. かなり健康	40.9	53.4	50.0	52.5	53.1				4. やや低い	9.8	18.7	13.3	17.7	10.3
			3. 不健康	7.9	16.1	20.0	27.0	11.9				5. まったく低い	3.3	4.7	2.0	7.1	5.2
遊過去 び経験の	.067	.121	1. 非常に遊んだ	61.4	52.3	50.7	41.1	56.7	障 害 体	.070	.154	1. 非常に高い	3.3	1.6	2.0	2.1	7.7
			2. かなり遊んだ	34.0	33.2	36.0	48.2	31.4				2. かなり高い	24.2	9.8	10.0	9.9	14.4
			3. あまり遊ばなかった	4.7	14.5	13.3	10.6	11.9				3. 普 通	55.3	54.9	34.0	56.7	57.7
ス ポ ー ツ 学 校 経 験	.053	.102	1. ほとんど非実施	7.4	12.4	12.0	14.9	2.1	社 会 的 健 康	.036	.120	4. やや低い	15.3	26.4	27.3	24.8	17.0
			2. 時々実施	36.3	33.7	32.0	35.5	38.1				5. まったく低い	1.9	7.3	6.7	6.4	3.1
			3. かなり実施	44.7	43.5	43.3	37.6	41.2				1. な い	94.4	87.6	84.0	79.4	98.2
			4. クラブに所属	11.6	10.4	12.7	12.1	18.6				2. あ る	5.6	12.4	16.0	20.6	9.8
ス ポ ー ツ 学 校 経 験	.027	.118	1. ほとんど非実施	6.0	11.4	9.3	11.3	2.1	サ ー ク ル 所 属	-.012	.145	1. 非常に健康	16.3	20.2	10.0	11.3	17.0
			2. 時々実施	19.1	34.2	20.0	23.4	23.7				2. 文化系所属	10.7	33.7	19.3	22.7	38.7
			3. かなり実施	11.6	8.8	11.3	14.9	12.4				3. 両方に所属	3.7	3.6	1.3	3.5	4.6
			4. クラブに所属	63.3	45.6	59.3	50.4	61.9				4. 非 所 属	45.6	37.3	49.3	46.8	31.4
ス ポ ー ツ 学 校 経 験	.000	.139	1. ほとんど非実施	15.8	25.9	22.7	17.0	8.2	住 居 形 態	.038	.135	5. 体育系退部	4.2	5.2	4.0	2.1	5.7
			2. 時々実施	37.2	44.6	42.7	52.5	50.0				6. 文化系退部	3.3	4.7	4.7	5.7	2.6
			3. かなり実施	7.4	12.4	6.7	6.4	11.9				1. 下宿・アパート	52.1	46.1	49.3	52.5	39.2
			4. クラブに所属	39.5	17.1	28.0	24.1	29.9				2. 寮	6.5	8.8	21.3	9.2	14.9
ス ポ ー ツ 学 校 経 験	-.081	.136	1. ほとんど非実施	34.0	44.6	51.3	46.8	36.1	健 康 度	.122	.163	3. 自 宅	41.4	45.1	29.3	38.3	45.9
			2. 時々実施	28.8	39.9	28.0	33.3	42.3				1. 非常に健康	33.5	18.7	16.0	13.5	21.6
			3. かなり実施	5.6	2.6	3.3	2.8	4.1				2. かなり健康	56.7	60.1	54.0	56.7	60.3
			4. クラブに所属	31.6	13.0	17.3	17.0	17.5				3. 不健康	9.8	21.2	30.0	29.8	18.0
精 神 的 健 康	.071	.136	1. 非常に健康	26.0	20.2	14.7	10.6	20.6									
			2. かなり健康	56.3	47.2	43.3	57.4	56.2									
			3. やや不健康	16.3	29.0	34.0	23.4	21.1									
			4. 不健康	1.4	3.6	8.0	8.5	2.1									

に8要因(年齢, 幼児期の祖父母の有無, 両親の有無, 兄弟数, 過去の居住地, 父の学歴, 母の学歴, 走れる時間)におけるそれは0.10未満であった。この結果から, 両親の特性あるいは生育環境に関わる要因は, 現在の社会的健康度に対して直接的な関連性をもたないことが示唆されるかもしれない。しかしこの問題の検討は今後の課題としたい。

表7に示される有意な諸要因とのクラスター・クロスの結果について詳述する余裕はないが, 主要な結果は次のように要約されよう。

1. ほとんどすべての要因, 即ち, 社会的諸要因, 過去・現在のスポーツ経験, 過去・現在の体力度, 身体的・精神的・社会的および総合的な健康度の自己判定, 等々において, 概して第I・第V・第II・第IIIそして第IVというクラスターの順序で, 好条件あるいは積極的という傾向にある。この順序性は, 前記の社会的健康度に関する順序性とほぼ一致するものである。

2. 従って, 非常に大雑把に一般化して言うならば, 社会的健康度が相対的に高い者ほど, 過去および現在のいずれにおいても, 社会的・経済的条件に恵まれ, スポーツ経験が豊富で, そして体力度や他の種々の健康度が高い, という傾向が認められる。

3. 同じことの繰り返しになるかもしれないが, クラスター別の特徴を更に個別にみて次の諸点が指摘される。

1) 第Iクラスター(ユウユウ型), つまり生活条件に恵まれ満足度も高く社会参加意欲は低いが娯楽志向の強いタイプは身体的・精神的・社会的および総合的な各健康度, 身体的障害, 過去・現在の体力度・遊び経験・スポーツ経験, 等々いずれの要因においても, 最も好条件あるいは積極的・肯定的傾向にある。そして相対的に, 男子・体育系クラブ所属者・文化系クラブ非所属者そして下宿生活の各カテゴリーが他のクラスターに比べ高い比率を示している。

2) 第IIクラスター(コツコツ型), つまり社会的諸条件には恵まれないが内面的向上意欲や社会規範の順守度は高いところの第IIクラスターは, 種々の健康度や体力度はいずれも中程度であるが, 過去・現在のスポーツ実施度は最も低い。他の属性としては, 女子・国立大学学生・体育系クラブ非所属者・文化系クラブ所属者あるいは自宅通学者がやや多い。

3) 第IIIクラスター(イライラ型), つまり種々の意欲や意識は著しく積極的であるが極めて非行動的であり生活条件に恵まれないタイプは, 過去・現在の体力度あるいはスポーツ経験などは中程度以上であるが, 種々の健康度の自己判定は第IVクラスターに次いで悪い。そしてこのクラスターは, 相対的には男子・私立女子大生・クラブ非所属者, そして特に寮生活者の各カテゴリーの比率が高い。

4) 第IVクラスター(フラフラ型), つまり最も無気

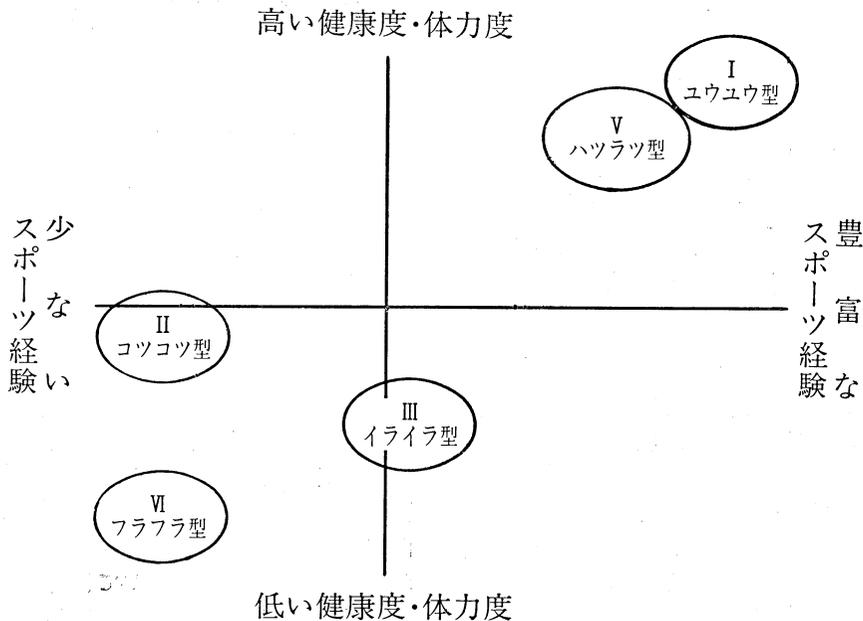


図4 各クラスターと主要要因の関連

力・無関心・非行動的・不満足というクラスターは、種々の健康度の自己判定は全クラスターの中で最低であり、また過去・現在のスポーツ経験は第Ⅱクラスターに次いで低い。その他の属性については、男子および自然科学系学部・下宿生の各カテゴリーがかなり多いことが特徴的である。

5) 第Ⅴクラスター(ハツラツ型)、つまり社会的健康度に関わる種々の意識や行動が最も積極的であるタイプは、種々の健康度の自己判定あるいは過去・現在のスポーツ経験などいずれの要因も第Ⅰクラスターに次いで高い。そして相対的に女子・私立大・教育系学部・自宅通学者のカテゴリーが他のクラスターに比べ高い比率である。

上記の諸結果をさらに集約することは既に不必要と思われるが、図4は各クラスターと諸要因の関連の概要を示すものである。

以上、社会的健康に関わるクラスターを抽出しそれを特徴づけると共に、各クラスターと関連諸要因の関与度について検討してきた。しかしながら、設定された社会的健康に関する測定項目自体がまだ明確な妥当性をもつものではないために、ここで抽出されたクラスターが精確なものであるとは必ずしも言えない。一方、後者についてもその点は同様であるが、更に社会的健康度の因果関係を追究するためにも一層多様な要因との相互連関関係を検討する必要がある。その意味でここで論じられたすべては今後の研究の足掛りにすぎない。

## 要約と課題

1. 本研究は、健康度指標の作成の作業の一つとして、特に社会的健康に焦点をあて、大学生を対象とする質問紙調査の実施と、そのデータへの因子分析の適用により、社会的健康の構成因子と関連諸要因の関わりについて検討したものである。

2. 主要な結果は次のように要約される。

① G—P 分析の結果、社会的健康の測定尺度として設定された108項目の内、95項目において0.30以上の高いクラマー係数が認められ、項目の妥当性が示唆された。

② 上記の95項目を基礎に因子分析を適用し10因子を抽出した。各因子の命名は次の通りである。

F 1 ……共同生活・協調性因子

F 2 ……積極的行動性因子

F 3 ……生活満足度・安定性因子

F 4 ……社会参加・内面的向上意欲因子

F 5 ……社会参加状態因子

F 6 ……勉学・情報因子

F 7 ……快適生活環境因子

F 8 ……社会規範・道徳因子

F 9 ……スポーツ活動因子

F 10 ……友人交際因子

③ 因子負荷量を基準とする非階層的クラスター分析の結果、下記の5つのクラスターが抽出された。

○Ⅰ(ユウユウ型) ……生活条件に恵まれ生活満足度も高いが、内面的向上意欲・社会参加意欲にやや乏しく、娯楽志向が強い。

○Ⅱ(コツコツ型) ……生活条件にはあまり恵まれないが、勉学・情報獲得活動などの実施状況あるいは内面的向上意欲や社会規範・道徳の順守度は極めて高い。

○Ⅲ(イライラ型) ……社会活動(参加)意識と内面的向上意欲は極めて高いのに対し、生活条件に恵まれず、また余暇・趣味・スポーツなどの行動の実施状況は著しく低い。

○Ⅳ(フラフラ型) ……社会活動意識・内面的向上意欲あるいは人間関係などをはじめすべての側面において、最も無気力・無関心・非行動的・不満足という傾向にある。

○Ⅴ(ハツラツ型) ……生活条件に恵まれ諸活動に積極的に参加し、特に社会参加の意識と状況あるいは社会規範・道徳の順守度が極めて高い。

④ 抽出された5つのクラスターと関連諸要因とのクラスター・クロスの結果、設定された25要因の内、17要因において0.10以上のクラマー係数が得られた。社会的健康あるいは各クラスターと関連諸要因との関係について種々の結果が得られたが、相対的に社会的健康度の高い者ほど、過去および現在のいずれにおいても、社会的・経済的条件に恵まれ、スポーツ実施度・体力度が高く、そして精神的・身体的および総合的な健康度の自己判定も高い、という傾向が認められた。

3. 以上のような結果を本研究では得たが、本研究の目的が十分に達せられたとは必ずしも思われない。冒頭で述べたことの繰り返しに他ならないが、その理由は次の三点に関連している。その第1は、研究当初においてはもとより現段階においても、「健康とは何か」、「社会的健康とは何か」に対する回答が依然として不明確であることにある。もとより健康という具体的

現象形態が存在するはずもなく、それは我々が仮説構成体としていかに設定し、いかに操作化するかにかかっている。その意味で、社会的健康に関する準拠枠と分析図式の再検討があらためてなされなければならない。第2の理由は、社会的健康に関する測定内容を精選していけばいくほど、それは論理的自己矛盾になりかねないことにある。例えば、`社会規範の順守、は一般的に言えば極めて重要な側面（次元、測定項目）であろうが、同様に `社会的矛盾の革新意欲、も重要な側面であるに違いない。勿論、両者の統合的解釈も可能であろうが、最終的には何らかの社会通念あるいはイデオロギーを前提とせざるを得ないだろう。換言すれば、一定のイデオロギー的共通理解がない限り、社会的健康に関する測定項目の設定は困難であると共に、無分別なその設定は一定のイデオロギーの押しつけになりかねないだろう。これに関連して、第3の理由は、特に社会的健康の場合、その健康状態として把握されるものは単なる個人的レベルのみの諸変数から構成されるものではなく、そこには社会的レベルの諸変数が密接に関連していることにある。例えば、`社会規範の順守、について一定の個人を社会的に不健康であると判定するためには、一定の社会規範が妥当性をもっていることを、一定の文化的・社会的・歴史的背景あるいは個人々の役割の綿密な考察により、またはそれらの差異を超越する普遍的基準の設定によって証明すると共に、それとの個人の相互連関関係を精確に記述し説明することによってのみ可能であろう。そうでない限り、単なる平均からのズレの判定に終りかねない。

もとより上記の諸点は社会的健康の研究が無意味であること、あるいは不可能であることを示唆するものでは決してない。それはこの種の研究には著しい困難が伴い、そこでは細心の配慮が必要であることを意味しているにすぎない。上記の問題点を克服するための今後の有効な方法の一つとして、例えば、ジュアリー・デルフェイ法の適用なども考えられるが、それらの検討は今後の課題としたい。

(注)

本研究は、元来、松本寿吉教授を研究代表者とする

「健康度指標作成に関する研究」(文部省科学研究費補助金、一般研究B)の一部として行なわれたものである。本研究のための調査の実施と結果の分析はすべて筆者自身の判断と責任において行なったが、その過程において貴重な助言を戴いた金崎良三助教授をはじめ関係諸氏に厚く感謝の意を表します。

参考・引用文献

- 1) 青井和夫 他 編著、「生活構造の理論」有斐閣、1971.
- 2) Bush, J. W., Milton M. Chen and Joseph Zaremba., "Estimating health program outcomes using a Markov equilibrium analysis of disease development," American Journal of Public Health 61: 2362-2375, 1971.
- 3) Bush, J. W., Sol Fanshel and Milton M. Chen., "Analysis of a tuberculin testing program using a health status index," Journal of Socio-Economic Planning Sciences, 6: 49-68, 1972.
- 4) デュボス, R, 田多井吉之助訳, 「健康という幻想」紀伊国屋書店, 1977.
- 5) デュルケム, 田原訳「社会分業論」青木書店, 1971. P. 82.
- 6) デュルケム, 宮島訳「社会学的方法の規準」岩波文庫, 1979. P. 157.
- 7) 北九州地区大学体育研究会編, 「保健体育概論」天地堂, 1976. P. 149-152.
- 8) 松田岩男他編著, 「現代教科教育学大系 8, 健康と運動」第一法規, 1974. P. 10.
- 9) 松本寿吉編著, 「健康度指標作成に関する研究」(1983. 近刊)
- 10) 森昭三, 「健康教育学」道遥書院, 1970. P. 11-12.
- 11) パーソンズ, 武田監訳, 「社会構造とパーソナリティ」新泉社, 1973. 第3部.
- 12) Patrick, D. L., Bush, J. W., Chen, M. M., "Toward an operational definition of health," Journal of Health & Social Behavior, 14: 6-22, 1973.